

バックナンバーは「GUNMAS」および当センターHP (<https://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>) に掲載しています

各部門の活動報告

スキルラボ部門

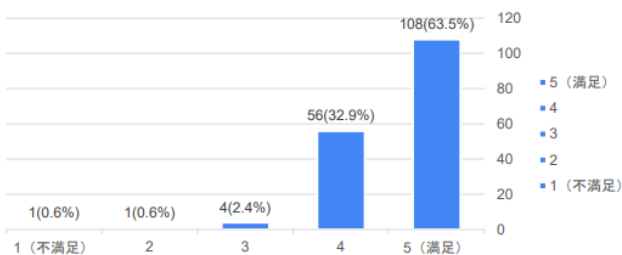
医学科オープンキャンパス開催

8月16日(金)～22日(木)、医学部医学科オープンキャンパスとして、スキルラボセンター・シミュレータ体験&研究室見学ツアーが実施されました。8月16日は、台風7号の影響により開催中止となりましたが、昨年を上回る239名の全国の中高生が参加しました。

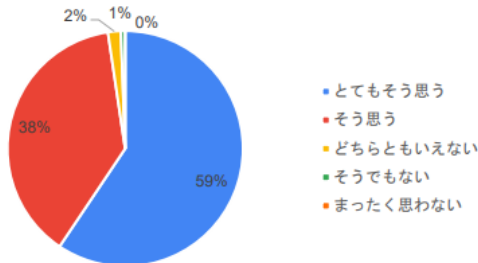
スキルラボセンターでは、診察(眼底鏡・腱反射・聴診の体験)や診断のための検査(鼻咽頭ぬぐい検査、超音波検査、気管支鏡・内視鏡検査)、治療のための手技(腹腔鏡下手術、遠隔操作手術)、その他(3D解剖実習、感染予防実習、分娩介助、心肺蘇生法の講習)の体験が実施されました。基礎系研究室では、ゲノム医療や次世代シーケンサー等の最新研究設備の見学や公衆衛生学の講義、顕微鏡観察、実験動物の行動観察が実施されました。グループごとにツアー形式で各所を巡る体験型イベントであり、中高生たちは目を輝かせながら、積極的に参加していました。また、今年度も医学科生がサポート役として、案内・誘導等を行ってくれました。体験・見学ツアー後の医学科生との懇談会では、大学生活に関する質問など、参加者から思い思いの質問が投げかけられました。中高生たちは、少し年上の医学科生の姿に触れ、自分の近未来が思い描けたようでした。

アンケート結果は、9割以上が「大変満足」「満足」であり、嬉しいコメントも多数いただきました。お忙しい中、熱心にご指導いただきました先生方、医学科生の皆さん、ご協力いただきました関係者の皆様に、この場をお借りし心より御礼申し上げます。

本日の医学科オープンキャンパスの満足度を5段階で評価してください



本日の医学科オープンキャンパスは、将来の進路を決める際の参考になりましたか?



検眼鏡を使って、眼底診察を体験しました

フリーコメントより

- ・シナプスの模擬授業や細菌の顕微鏡観察がとても面白かったです。
- ・実際に聴診器やエコーを体験することで、どんな風にお医者さんが診断しているのかが知ることができとてもいい勉強になりました。
- ・先輩や同じ志望校の方々とお話をすることができ、とても参考になりました。また、産婦人科のお産の体験などでとても有意義な時間でした!



分娩介助の体験をしました。無事に、赤ちゃんが生まれました!

心臓マッサージとAEDで命を救う方法について学びました





口腔内細菌を顕微鏡で観察しました



代謝マップについて学びました

シナリオトレーニングセミナー開催

第1回シナリオトレーニング（9月25日）、第2回シナリオトレーニング（11月27日）を開催しました。総合医療学の小和瀬桂子先生を講師にお招きし、シン・診断推論～HistoryとPhysicalで診断にせまろう～というタイトルでご講義いただきました。医学部医学科生計10名が参加し、病歴聴取と身体診察からの確に診断する方法を学習しました。アセスメント後の身体所見では、心音聴診のトレーニングシミュレータ（イチローII A）を用いて、触診や聴診から心電図や心音図の読み方まで復習し、学びを深めました。今後も継続的に開催を予定していますので、ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

臨床実習フォローアップセミナー開催

診療の基盤となる基本的臨床手技の理解を深め、技術を修得することを目的に、医学部医学科6年生を対象に臨床実習フォローアップセミナーを開催しました。11月1日、5日、6日の3日間に分けて実施し、計104名が参加しました。各基本的手技について、手順を確認しながら丁寧に復習していた姿がとても印象的でした。スキルラボセンターでは、引き続き、卒前卒後のシームレスな学習環境の整備に努めてまいります。



シミュレータ・機器の新規導入について

今年度、スキルラボセンターに心肺蘇生法の質を測定する小型センサー“CPRメータ2”が5台、“血圧測定シミュレータII”が3台、新規に導入されました。“CPRメータ2”は、心肺蘇生時の胸骨圧迫の深さ、頻度、リリースの質を測定し、リアルタイムでフィードバックされます。より質の高い胸骨圧迫を実施するためのトレーニングツールです。また、“血圧測定シミュレータII”は、血圧測定時の加圧・減圧速度の評価等が可能で、血圧測定の基本を修得することができます。学生実習や職員研修等、幅広くご活用ください。

* ご利用を希望される方は、スキルラボセンターホームページ

(<https://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/slc/>) よりお申込みください。

群馬手術手技研修センター

スキルラボと連携して運営している群馬手術手技研修センターでは、ご遺体を用いたサージカルトレーニングを定期的に行っています。今年度も2回の研修を行い、のべ29名の参加がありました。高難度あるいは新規手術手技や手術のトレーニング、新たな医療機器等の研究開発を行うことを通じて、医療の質と安全性の向上を図り、国民福祉への貢献を目指しております。

引き続き、充実した研修が行えるよう努めていきたいと思っておりますので、よろしくご依頼致します。研修についてご不明な点がありましたらいつでもお問い合わせください。

群馬手術手技研修センターのホームページ

(<https://cst-gunma.med.gunma-u.ac.jp/>) も開設しておりますので、ぜひそちらもご覧ください。



研修実施前のガイダンスの様子

看護職キャリア支援部門

主な活動報告

看護部キャリア支援部門では、看護職の研修企画・運営および保健学研究科との連携推進、地域看護職の研修支援や看護学生の臨地実習支援等を行い、看護職の実践能力向上を支援しています。今年度、看護部では64名の新人看護職員を迎えました。コロナ禍での基礎教育課程を過ごした背景を踏まえ、技術的側面、精神的側面の両面からサポートできるよう、プリセプターシップ制度の「部署全体で新人を育てる」「共に学びあう」の基本理念のもと新人教育に取り組んでいます。

また、近年は医療の高度化が進み、看護職に求められている役割も多様化しており、思考力、問題解決能力、コミュニケーション力などがより求められます。そして、病院での看護の視点だけでなく地域生活を見据えた視点や多職種連携も重要となります。そのような現状に対応するために「臨床倫理」「臨床推論&KIDUKI」「2年目看護師フォロー研修」「教育スキル向上研修」「退院支援」といった研修も導入しています。

今年度も引き続き、生涯にわたり研修を受け、成長・進歩し社会の要請に応えられるような看護職の育成を行ってまいりますのでよろしく願いいたします。



令和6年度新人看護職員



令和6年度臨床推論 & KIDUKI

地域医療支援部門

医師職場体験セミナー、地域医療体験セミナーを開催しました

2024年夏、医学部医学科進学を希望する高校生を対象に「医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー」を開催しました。県内13医療機関にて、合計73名の高校生が参加しました。院内見学やシミュレータ等を用いた体験を通じて、実際の医療現場が抱える課題を知り、将来のビジョン形成やモチベーションアップに役立てていただけた様子でした。

医学部医学科生を対象とした「数日型地域医療体験セミナーin群馬」、「地域医療体験セミナーin群馬」を県内8医療機関にて開催し、延べ44名の医学科生が参加しました。院内見学や手術見学、医師との懇談等を通じて、地域で求められる医療を実際に体験し、将来の医師像を描くきっかけとなっていれば幸いです。

お忙しい中、ご協力いただきました関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。



手術機器を用いたシミュレーションの様子（前橋赤十字病院にて）

地域医療卒学生情報交換会（夏）

例年、夏・冬の年に2回、地域医療卒学生・卒後医師、関係職員との情報交換を目的に「地域医療卒学生情報交換会」を開催しています。令和6年7月12日（金）、群馬大学医学部石井ホールにて、地域医療卒学生52名、卒後医師3名、関係者19名が参加し、合計74名が集う盛大な会となりました。複数のグループに分かれてテーマに沿ったワークショップを行うなど、盛況のうちに終了することができました。お忙しい中、ご参加いただきました皆様に心より御礼申し上げます。



地域医療卒情報交換会（夏）

はじめて学ぶ地域医療、利根川プログラム

令和4年度より、埼玉県・群馬県で共通の課題である医師不足、少子高齢化、患者の流出入を解消するため、埼玉医科大学と群馬大学共同で「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業として、両県の県境地域に焦点を当てた教育を実践しています。群馬大学の教育プログラムとして、新たな2つの教育プログラムが開講されています。

教養教育科目「はじめて学ぶ地域医療～かしこく健康にいきる～」は、医学科生以外にも、保健学科生（看護学、検査技術科学、理学療法、作業療法）・共同教育学部生・理工学部生・情報学部生が履修できます。120名の学生が、両県について住民の視点から地域医療における課題を自ら抽出し、多様な視点からの考えを共有し、学修・討論を行いました。

専門教育科目「県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）」では、夏季・春季休暇を利用して県境地域のバスツアーや臨地実習を行っています。令和6年度夏、両県の連携医療機関にて、地域における病院の役割、メディカルスタッフとの連携等について学びました。両大学合同のオンラインによる事前学習、振り返り学習では、県境地域や医療情勢について発表会を実施しました。

両教育プログラムともに、令和6年度の履修者は昨年度の約2倍に増え、両県の地域や医療情勢に興味や関心を持つことができたという意見が9割以上でした。



学生によるグループ発表



検査科実習の様子
(桐生厚生総合病院)



救命救急センター実習の様子
(埼玉県済生会加須病院)

新任教員のあいさつ

新任のご挨拶

地域医療研究・教育センター地域医療支援部門
助教 澤田 友里

2024年8月より地域医療研究・教育センター地域医療支援部門の助教となりました。群馬大学医学部医学科を卒業し、群馬大学医学部附属病院で初期研修ののち、呼吸器・アレルギー内科に入局し、県内各病院で診療に従事してきました。これからは診療に加えて、群馬県のリーダーとなれるような医療者の育成、支援に携わり、より一層群馬県の医療に貢献していければと考えております。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

